二〇二六年度　桐朋女子中学校入学試験

論理的思考力＆発想力入試　言語分野

受験番号

氏名

【注意】

一、問題冊子が配られても、開いてはいけません。

二、問題冊子は1ページから5ページまであります。

三、「はじめてください」と言われたら、まず、問題冊子の表紙と解答用紙二枚と下書き用紙に、それぞれ受験番号と氏名を書きなさい。

四、答えはすべて解答用紙に書きなさい。

五、問題冊子に書きこみをしてもかまいません。

六、「やめてください」と言われたら、すぐに筆記用具をおき、解答用紙も問題冊子も表を上にして、机の上におきなさい。

七、試験時間は五十分間です。

次の【文章A】～【文章C】は、「価値」について書かれた文章です。これらの文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数制限のある問題に答える場合、「、」や「。」等も一字と数えます。

【文章A】

貨幣のなかった時代、人々は必要なものを自分たちで生産する自給自足の生活をしていました。縄文時代には、石器の材料で産地が限定される黒曜石や乾燥させた保存食糧などを物々交換によって他の地域から手に入れることはありましたが、それ以外は、ほとんど自分の住んでいる地域でまかなえるものだけで生活していました。しかし、今からおよそ2,500年前の弥生時代からさらにヤマト政権の時代になると、自給できないものを物々交換で幅広く手に入れ、より豊かな生活が行われるようになりました。

物々交換とは、自分が所有する品物と他人が所有する品物とをお互いに取りかえることです。しかし、一口に物々交換といっても、自分が提供できるものと相手がほしがっているものとが一致しなければ、話はまとまりません。また、交換する品物の価値が同じであればよいのですが、その価値があまりに違う場合も物々交換は成立しません。だれもが例外なしにほしがり、だれにとってもその価値が共通であるものを持っていれば、交換の話はまとまる可能性が高くなります。こののだれもがほしがるもの、共通の価値を持つものとして生まれたのが「貨幣」なのです。

貨幣は「だれもがほしがるもの」とお話ししました。それでは、貨幣にふさわしいものとはどのようなものでしょうか。

価値の高いものならだれもがほしがりますが、価値がきわめて高いものは一度手に入れたらだれもが手放そうとはしません。すると、かえって流通しなくなってしまい、貨幣としての役割をはたすことができません。また、広く流通させるためには一定の数量が必要なので、数が少なく貴重すぎるものも適していません。ダイヤモンドはだれもがほしがるでしょうが、全国に流通させるほどの数量を確保することができないので、貨幣にすることはできないのです。つまり、ほどほどに価値が高く、広い範囲に流通するだけの数量を確保できるものでなければならないのです。そして、運搬と保管が簡単にでき、質の均一さや価値の安定を保てることが求められます。また、必要な分だけを分離して、簡単に数えることができることも必須条件です。さらに、見た目が美しければいうことはありません。このような多くの条件を満たすことのできるものが、貨幣にふさわしいものなのです。

どのような時代でも、人が生きるためにもっとも必要とするものは、「衣」「食」「住」にかかわるものです。住居は持ち運べませんから除外するとして、布や食糧はだれもが例外なく必要としていました。弥生時代からさらにヤマト政権の時代には、自給できないものを手に入れたい人は、あらかじめ自分の持ちものを布や食糧などにかえておき、それを持って人の集まるところに出かけていきました。つまり、布や食糧が貨幣のように用いられていたのです。そして、自分の必要としているものを持っている人を探します。そのように品物を交換したい人たちが集まるところを市といいました。

布や食糧のように、貨幣の役割を持つものを「物品貨幣」といいます。物品貨幣となる食糧のなかでは、だれもが必要とする米がもっとも重視されていました。米は、籾をつけたままなら長期保存も可能で、取り扱う量を自由に加減できるので、とても便利でした。ただし、

重いため運ぶのに適していないという欠点がありました。また、注意深く保管しないと、ネズミにかじられたり、カビが生えたりすることもあります。その点、布は米に比べてはるかに軽く、長期保存も容易にできます。しかし、種類や品質がさまざまなため、米よりも交換条件の調整がむずかしいという欠点がありました。

そこでだれもが、米や布にかわる、売買に適したものがないだろうかと考えることになります。

（阿部泉『明日話したくなる　お金の歴史』清水書院）

〔問題一〕本文中で述べられている物々交換が成立する条件について二つ答えなさい。

〔問題二〕次にあげるのは、【文章A】を読んだ生徒と先生が交わした会話です。会話文を読んで、(1)～(4)について答えなさい。

生徒：世界で最も古い歴史をもつ貨幣とは、どのようなものだったのですか。

先生：タカラガイを用いた古代中国の「貝貨」だと言われています。その証拠（しょうこ）に、お金に関する漢字には「貝」を使っているものが多くあるでしょう。

生徒：本当だ。例えば、【①】という字がそうですね。

先生：そのとおり。中国の雲南では、千年にもわたってタカラガイが貨幣として使われていました。貨幣として使われたタカラガイの多くは、ハナビラダカラという種類であり、大きさは25ミリメートル前後のものであったようです。

生徒：タカラガイが、米と比べて貨幣としてむいている一番大きな点は、【②】であると言えますね。また、布と比べて貨幣としてむいている一番大きな点は、【③】であると言えますね。では、貝貨はなぜ、使われなくなってしまったのですか。

先生：たくさんの理由がありますが、その理由の一つに、貝の価値が【④】によって異なるということがあげられますね。海に近く、タカラガイが簡単に手に入るモルディブ諸島では、ゲームのコマとして使われていました。海から少し離（はな）れた所では、日常の売買に用いられる貝貨として使われていました。また、そこからさらに離れた高原では、特別な時の儀式（ぎしき）の道具として大切に保管されていたようです。

生徒：なるほど。海から離れた高原では、貨幣としてタカラガイが日常に用いられなかったのは、貨幣の条件として必要な【⑤】という面で課題があったからだと言えそうですね。

(1) 会話文中の【①】に入る漢字として適切ではないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　貴　　イ　敗　　ウ　財　　エ　貯

(2) 会話文中の【②】・【③】に入るものとして適切な言葉を【文章A】の本文中の言葉を用いて答えなさい。

(3) 会話文中の【④】に入るものとして適切な言葉を五字以上十字以内で考えて答えなさい。

(4) 会話文中の【⑤】に入るものとして適切な言葉を【文章A】の本文中からぬき出して二十字以内で答えなさい。

【文章B】

商品やサービスにおける「価値」とは何だと思いますか。それを考える前に、「価値」という言葉の意味をもう一度確認しておきましょう。広辞苑によると、「価値」は「物事の役に立つ性質や程度。ねうち。」と定義されています。では、その「価値」はだれがどのように決めるのでしょうか。

飛行機を例に考えてみましょう。飛行機は乗客や貨物をある場所からある場所へと運んでくれる乗り物です。座席には、エコノミークラス、ビジネスクラス、ファーストクラスといった種類がありますが、どの座席を選んでも、飛行機に乗った人を全員、安全にかつ同じ速度で荷物と共に同じ場所へと連れて行ってくれます。しかし、座席のクラスによって提供されるサービスの差は歴然としています。例えば、エコノミークラスでは、50名程度の乗客に対して、1名の客室乗務員がサービスを行うのに対し、ファーストクラスでは、2～3名の乗客に対して、1名の客室乗務員がつきます。座席シートは、エコノミークラスで確保されているのは一人につき椅子一つ分のスペースであり、身体を横たえる場所はありませんが、ファーストクラスでは、シートが180度たおせるようになっており、他者からの視線がさえぎられるような工夫がなされています。機内食については、エコノミークラスでは、決められた時間に決められた内容の食事の提供がありますが、ファーストクラスでは、メニューの中から選ぶことができ、しかも自分の望む時間に提供を受けることができるのです。もちろん、これらのサービスの差は価格に反映されます。航空会社や利用する時期によってもちがいますが、ある航空会社の同じ日の同じ路線の料金で比較してみると、ビジネスクラスの料金はエコノミークラスの約1.7倍、ファーストクラスの料金はエコノミークラスの約4.2倍でした。この価格の差をどのように受け止めるかは人それぞれです。飛行機に乗っている時間は、単なる移動時間であり、電車や車よりも速く目的地に着けばそれで十分である、と思っている人にとっては、座ることができる席と最低限のサービスが提供される値段の安いエコノミークラスが、その人にとってのちょうどよい価格です。しかし、移動時間も大切な旅行の一ページであり、広くプライバシーの確保された快適な空間でぜいたくな食事を楽しみながら過ごしたい、と思っている人にとっては、値段の高いファーストクラスであっても適正な価格といえるでしょう。つまり、「価値」は人によってちがうものなのです。もっと言えば、「価値」の判断基準は、商品やサービスを受ける人にとって見合うかどうかにあるといえるのです。

【文章C】

ある駅の階段には、右のイラストのような表記がありました。（イラスト略）

階段の活用を促す表記です。

「階段を1段上ると、0・1キロカロリー消費するので、階段を使おう！」というメッセージが込められたものですが、階段を使う人からしたら無意識に階段をただ上るよりも、カロリーを消費していることを意識して上ったほうが、階段を上る価値を感じられます。

この「0・1キロカロリー消費します」という表記こそ、本書のテーマである付加価値です。

別にこの表記がなくても階段は成立しています。でも、この表記があることで階段の新しい価値を提供することができる。それが付加価値なのです。

（柿内尚文『このオムライスに、付加価値をつけてください』ポプラ社）

〔問題三〕次にあげるのは、【文章Ｂ】・【文章Ｃ】を読んだ生徒と先生が交わした会話です。会話文を読んで、(1)～(4)について答えなさい。

生徒：先生は、この間の日曜日に飛行機で北海道に行かれたのですよね？その時は、どのような座席を選びましたか。

先生：エコノミークラスにしました。

生徒：それでは、先生が飛行機に求めるものは、【⑥】ということなのですね。

先生：いや、必ずしもそういうわけではありません。時と場合によって、エコノミークラスの席を選ぶ時もあれば、ビジネスクラスやファーストクラスの席を選ぶこともありますよ。

生徒：では、文章Ｂの内容と、先生のお話をまとめて考えると、価値の判断基準は、【⑦】と言えそうですね。

先生：はい。価値の本質について、考えを深めることができましたね。

生徒：文章Ｃでのべられている付加価値についても興味深い内容でした。

先生：階段がもともと持っている価値とイラストの表記によって生まれた付加価値についてそれぞれ書かれていましたね。

生徒：付加価値とは、もともと持っているものに加えて、【⑧】かどうかにあるといえそうですね。

先生：そうですね。しかし、私自身はここに書かれているようなカロリーの消費を意識することにあまり魅力（みりょく）を感じていません。だから、階段のとなりにエスカレーターがあったとしたら、そっちにいってしまうな。

生徒：そうなんですね。先生にとって、階段の活用を促すこの表記は意味を持たないということですね。

先生：はい。サービスや商品を受けとる側にとって、それに意味があれば付加価値といえますが、意味がなければ価値がないということになります。

生徒：なるほど。新しい企画（きかく）を考えたり、商品を開発したりする時には、自分の考えた「付加価値」の対象はだれなのか、どういった時にその付加価値は効果を発揮するのかといった視点が大事になりますね。

(1) 会話文中の【⑥】に入るものとして適切なものを次の中から全て選び、記号で答えなさい。

ア、プライバシーの確保された空間で移動できること
イ、電車や車よりも速く目的地に到着（とうちゃく）できること
ウ、安全に乗客と荷物を目的地へと運んでくれること
エ、座る席が確保されていること
オ、食事を自由に選ぶことができること

(2) 会話文中の【⑦】に入る言葉を考えて答えなさい。

(3) ――線部「階段がもともと持っている価値とイラストの表記によって生まれた付加価値」とは何ですか。「～としての価値」という形につながるよう、それぞれ答えなさい。

(4) 会話文中の【⑧】に入る適切な言葉を【文章Ｃ】からぬき出して二十字以内で答えなさい。

☆ここまで、「価値」というものに着目をして文章を読んできました。この後の問いは、あなたの考えを書く問題です。問題文を丁寧に読み取って書くこと。

〔問題四〕日本では、古くから筆記具として毛筆が用いられてきました。「えんぴつ」は、江戸時代には、西洋の最新の筆記具として伝わっていたようですが、本格的に使われるようになったのは明治時代に入ってからだと言われています。

それでは、現在、みなさんが使っている「えんぴつ」に、付加価値をつけて商品として売るとしたら、あなたは「えんぴつ」にどのような付加価値をつけますか。左の枠内の《条件》にしたがって書きなさい。ただし、その付加価値は、今すでに商品やサービスとして提供されているものでもかまいません。

《条件》

1、三百六十字以上、四百字以内で書くこと。段落をかえたときの残りのます目は字数として数えます。

2、題名は書かないこと。

3、原稿用紙の正しい使い方にそって書くこと。

4、第一段落に、他の筆記具と比較しながら、「えんぴつ」がもっている筆記具としての特徴について、具体的に書くこと。

5、第二段落に、第一段落をふまえた上で、あなたが考えた付加価値が、「えんぴつ」を商品として売る上で、だれにとってどのような意味をもつ付加価値なのかについて、具体的に書くこと。